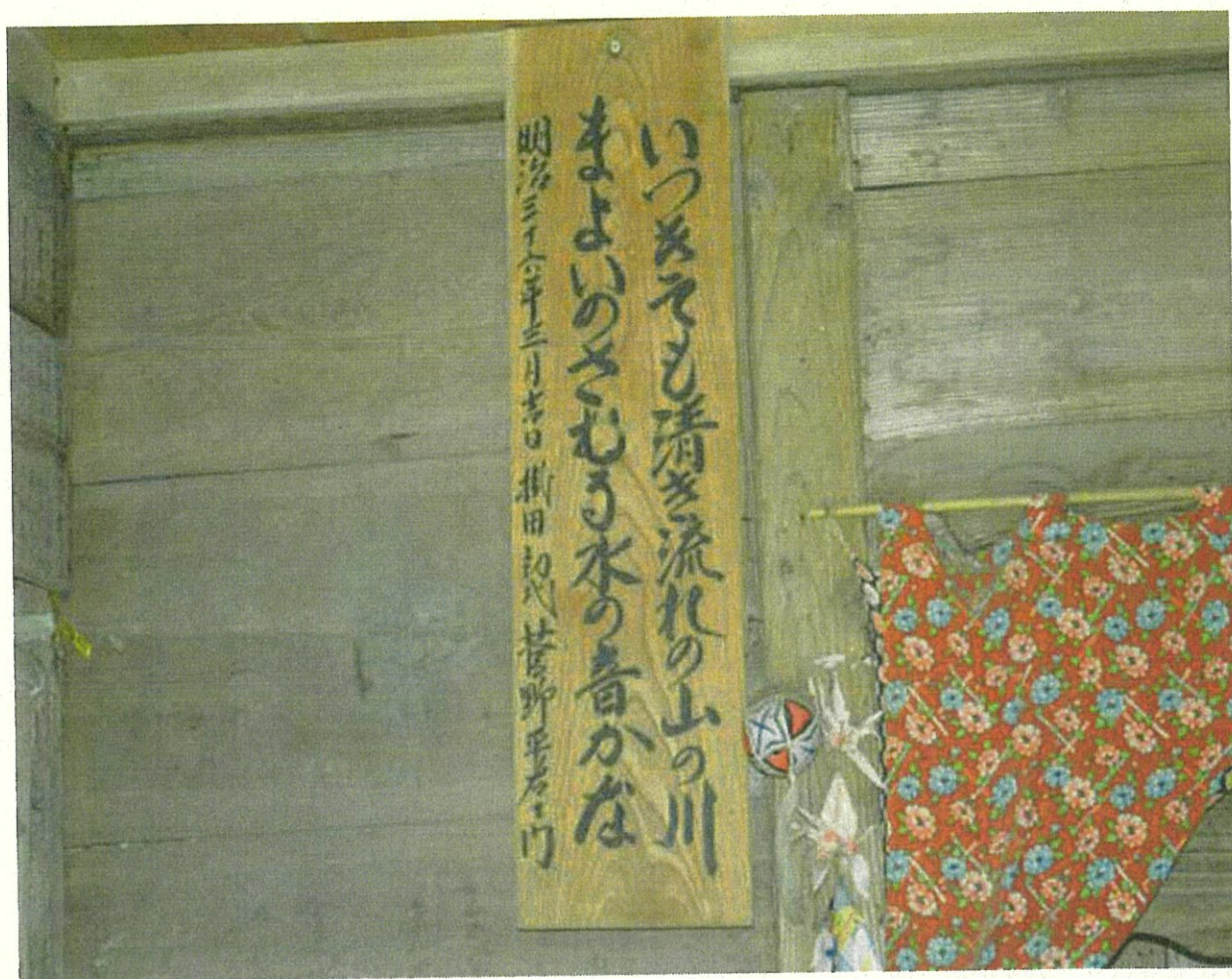


山野川地域づくり計画書



(出典：山野川北部観音様 所蔵品)

2019（平成 31）年 3 月

山野川地区自治協議会

(所在地 伊達市霊山町山野川字根元 35-1 山野川ふれあいセンター内)

■表紙写真解説■北部行政区安藤正行さんに話を伺いました

- ・「掛田初代菅野平右衛門」は「初代掛田町長・菅野平右衛門氏」。平右衛門氏から安藤家に贈られた歌を代々「北部観音様」を守ってきた安藤正行さんのご先祖が観音様に掲げました。でも第2次大戦中の昭和19年頃なぜか盗難にあってしまいます。正行さんのお父上正三さんは戦後の昭和22年頃、ご自身の記憶を辿りお近くの大槻ウメさんにも聞き取りをし作り直し掲げたのが現在の木札。書は泉原の故橋内正実さんの筆によるものだそうです。
- ・「まよいのさむる」という古語には「迷いがなくなる」の意味があるようですから、初代掛田町長だった菅野平右衛門氏は、訪れるたびに「迷いがなくなる思いにさせてくれる」山野川に感謝してこの歌を詠んだのではないのでしょうか。木札1枚にも明治から平成にいたる地域の歴史があることを教えてくれたことに感謝して表紙を飾ることにしました。

「山野川地域づくり計画書」目次

はじめに……………	4
第1章 山野川地域の概要……………	5
第2章 地域の振興に向けた方向性……………	5
第3章 「5分野5テーマ」の「基本目標」と「主な事業」……………	6～9
I くらしづくり(総務・情報)班…	6
II まちづくり(まちづくり、イベント)班…	6
III ものづくり(産業振興)班…	7
IV 元気づくり(健康福祉)班…	8
V ひとづくり(教育文化)班…	9
おわりに……………	10

■資料編■

○資料編1 山野川地区の「地域づくり計画」(将来計画)策定推進チーム設置要綱…	11
○資料編2 策定委員名簿…	12
○資料編3 計画策定の経過と組織…	13
○資料編4 ワークショップの情景(山野川ふれあいセンター) …	14

はじめに

私たち伊達市霊山町山野川地区に住む120世帯350人の住民は、2016(平成28)年2月21日、山野川地区の地域自治組織として「山野川地区自治協議会」(以下「山野川自治会」)を設立いたしました。

そして、設立後間もなく私たちは、山野川地域における現状と課題を整理し、地域づくりの目標や具体的な事業計画等を検討し策定するため、策定委員27名による「山野川地域づくり計画策定推進チーム」を立ち上げました。

そしてチーム内には5つの班を編成。地域自治組織として取り組むテーマを5つ定め、そのテーマを踏まえた地域づくりをどうするか、あるときは班別にそしてある時は委員全員で検討を重ねてきました。この作業をサポートしてくれたのが「山野川自治会」設立をサポートしてくれた「伊達市市民活動支援センター」(以下「センター」)でした。

何と云っても、お手本のない作業の連続だっただけに、暗中模索の中での策定作業ではありました。しかし、班の皆さんやセンターの皆さんのご尽力、熱意のおかげもあって、当初の目標より2年遅れとはなりましたが、何とか私たちの「山野川地域づくり計画書」がこのたび、こうしてできあがったのです。

この「山野川地域づくり計画書」は、自ら取り組む地域づくりの活動方針や具体的事業内容等を内外にお示しするための文書です。もとより、山野川地域の発展と振興を目指し、検討し策定した計画(P l a n)ですから、実行(D o)されなければ意味がありません。

そこで私たちは、できあがったばかりの、この「山野川地域づくり計画書」を改めて内外にお示しし、併せて、この計画の中身を毎年度の事業計画に反映させ成果に結びつけるため「P l a n(事業計画)⇒D o(事業実施)⇒C h e c k(点検・評価)⇒A c t i o n(見直し・反映)」の「PDCAサイクルによる事業改善システム」を回し続けることを、ここに宣言することで、自分たちの進むべき道を再確認する次第です。

平成31年3月吉日
山野川地区自治協議会
山野川地域づくり計画策定推進チーム

第1章 山野川地域の概要

山野川地域は、東に泉原地区及び南を掛田地区、西を保原町に接する。集落の規模は、6行政区、世帯数120世帯、人口350人で、人口規模で霊山町の約21分の1の小さな集落である。

平成25年3月に人口337人、世帯数112世帯であったものが、本年度においては下表のとおり人口は350人と13人（3.9%）増加している。

資料：平成30年3月現在（伊達市霊山町総合支所）

	山野川地区	霊山町	伊達市
人 口	350 人	7,367 人	61,207 人
世帯数	120 世帯	2,729 世帯	22,590 世帯
65歳以上人口 (高齢化率)	147 人 (41.9%)	2,949 人 (40.0%)	20,810 人 (34.0%)
15歳以下人口 (割合)	22 人 (6.3%)	543 人 (7.4%)	6,363 人 (10.4%)

地域内は、小国川を挟んで集落が形成され、徳が森や大館山の山々が起伏する緑豊かな自然環境となっている。

本地域は、水稻と養蚕業を基幹産業として栄えてきたが、最近では水稻を主体とした経営から、収益性の高い野菜及び果樹、あんぽ柿を中心とした農業である。近年、農業経営者の高齢化により休耕地の増加や後継者・担い手不足が深刻となっている。

工業においては、地域内での就業機会は少ないものの工業団地や小規模事業所もあり、外国人技能実習生も就労している。

また、本地区の生活基盤は、その多くが勤労者による給与収入を主とする第2種兼業農家である。

一方、地域住民の交流・親睦は、以前は農村公園、広場において、大運動会、盆踊り大会、芋煮大会などが地区民総出で盛大に行われていたが、「山野川ふれあいセンター」が設置されてからは活動の中心をふれあいセンターに移し、今日まで様々な行事等が開催され、地域連帯感の醸成、健康増進に寄与し、地域活性化の拠点となっている。

第2章 地域の振興に向けた方向性

住民相互の連帯を深め、住民の創意工夫と責任のもと、行政との協働により、住み良い山野川地域を形成していくことを目的とする。

次に掲げる事項を中心に、山野川地域づくり計画を策定する。

- (1)健康・福祉活動
- (2)生活環境活動
- (3)環境保全活動
- (4)防災・安全活動
- (5)教育・文化・スポーツ活動
- (6)産業振興活動
- (7)その他目的達成のために必要な事項

第3章 「5分野5テーマ」の「基本目標」と「主な事業」

I くらしづくり(総務・情報)班

【テーマ：住民が安心して健全に生活するために】

○高齢者対策やバス路線の新設、河川愛護デー対策に関すること

＜地域住民が自ら実施・協働していく事業＞

番号	事業名	事業内容・事業主体		実施時期		
		地域	行政	短期	中期	長期
1	安全マップの作成(安否確認含む)	民生委員・行政推進員と連携し1人暮らしのお年寄りの自宅訪問・状況把握し作成する	情報提供	○		
2	寿楽会の活性化	自治会と寿楽会が協議し活性化策を検討する。		○		
3	まち中タクシーの巡回		実施中		○	
4	赤坂経由保原行きバス路線の復活		関係機関に働きかける		○	
5	河川敷草刈の委託	作業委託を市に要望し、補助金申請等は当該組織で行う。	補助金の交付	○		
6	定期的な除草作業の実施	自治会と行政区との協議及び住民の理解を求める。			○	

II まちづくり(まちづくり、イベント)班

【テーマ：住みやすく活気があり、豊かでにぎやかな地域にするために】

○市道や農道の整備・清掃、住吉神社の活性化に関すること。

＜地域住民が自ら実施・協働していく事業＞

番号	事業名	事業内容・事業主体		実施時期		
		地域	行政	短期	中期	長期

1	フラワーロード事業(花木植栽)の実施	花壇づくりのほか、沿道に季節に応じた花木を住民が参加して植栽を行う。			○	
2	市道の補修・整備(東部 2)	平成 30 年度要望し一部実現。山林の木や竹で塞がれているため地権者への働きと市に補修及び整備を要望する。		○		
3	活性化に向けてアンケートの実施	神社総代と協議する。		○		
4	地域全体で取り組みイベントを開催	神社総代と協議する。 (売店を出す)		○	○	

<行政へ要望していく事業>

番号	事業名	事業内容・事業主体		実施時期		
		地域	行政	短期	中期	長期
1	道路の補修・整備促進		安全確保のための補修箇所の確認や道路改良、整備促進を図る	○		

Ⅲ ものづくり(産業振興)班

【テーマ：農業の振興、中小企業の育成を図るために】

○遊休農地・耕作放棄地の解消と地域環境の改善、恵まれた自然環境の保全に関すること。

<地域住民が自ら実施・協働していく事業>

番号	事業名	事業内容・事業主体		実施時期		
		地域	行政	短期	中期	長期
1	農地再生のための実施組織の設立	農業組織と連携して実施組織の調整と設立に向け協力をする。		○		
2	景観作物とミツバチ飼育の推進	遊休農地を活用し、菜の花やれんげ等を栽培し地域を花で彩る。又、ミツバチを飼育し蜂蜜を採集し製品化	支援策の情報提供	○		

		を検討する。				
3	家畜(羊・山羊)放牧の推進	遊休農地や耕作放棄地内に草刈り動物を放牧し、草刈り作業の低減と羊肉の販売やチーズの製造販売を検討する。	支援策の情報提供		○	
4	山野川地域環境保全組合との連携	地域環境の保全に向けて協力連携の在り方等について、定期的に協議をする。		○		

Ⅳ 元気づくり(健康福祉)班

【テーマ：あかちゃんからお年寄りまで、みんなで助け合い明るく元気で暮らすために】

○元気づくり・健康セミナー・体力づくり及びウォーキングに関すること。

<地域住民が自ら実施・協働していく事業>

番号	事業名	事業内容・事業主体		実施時期		
		地域	行政	短期	中期	長期
1	健康セミナーの開催	実施中		○		
2	ゲートボール・グランドゴルフ大会の開催	実施中		○		
3	健康ウォーキングコース選定委員会の設置	自治会内に設置し大勢で歩いて目的別・距離別に楽しい散歩コース(神社も含む)の設定と歩け歩け運動の呼びかけ、地域活性化を図る。		○		

<行政へ要望していく事業>

番号	事業名	事業内容・事業主体		実施時期		
		地域	行政	短期	中期	長期

1	ウォーキングコース内にトイレ、ベンチの設置		市民の健康増進を図るためウォーキングコース内にトイレと休憩場所の設置を要望する。		○	
---	-----------------------	--	--	--	---	--

V ひとづくり(教育文化)班

【テーマ：文化教育を通じて、人と人とのつながりを大切にし、生涯学習、スポーツの振興の為に】

○ふれあいセンターの活用及び子ども育成会の強化に関すること。

<地域住民が自ら実施・協働していく事業>

番号	事業名	事業内容・事業主体		実施時期		
		地域	行政	短期	中期	長期
1	文化活動の充実、セミナー、講座等の開催	地域住民のニーズを踏まえ自治会内文化活動等の開催及びその充実を図る。		○		
2	同好会、サークルの育成を図り活用	地区内のコミュニケーションを図るため自治会とは別に自主的な同好会やサークルの育成を図り人生をより一層豊かにする。		○		
3	読書会(お話し会)の開催	読書による感動体験の交流を図る読書会の開催を子供育成会と協議の上、開催を検討する。		○		
4	寿楽会との交流促進	お年寄りと子供達との交流を通じ、お年寄りの知恵を学ぶ機会の推進。		○		

おわりに

2016（平成28）年2月21日の「山野川地区自治協議会」の立ち上げ以来、私たちは「山野川地域づくり計画策定作業」に追われる中でも、既に事業として、「区民会」から引き継いだ「盆踊り」や「ふれあいフェスティバル in 山野川」の開催など、まずは取りかかれるところから具体的な活動も少しずつ展開して参りました。

これからの山野川地域は、この地域に生活するすべての地域住民が参画し、夢と希望にあふれた地域づくりに努めていかなければなりません。

私たちは、山野川地域の歴史や文化、風土や地勢を再認識し、そして、この計画の策定により、いよいよ、本格的に「山野川自治会」の活動をスタートさせていきます。

自治組織としては歩き出したばかりの組織です。運営方法も含め、まだまだ、課題の多いところではありますが、活動の主体となるのは地域住民の皆様お一人お一人です。

山野川地域住民の皆さん一丸となって、住みやすい地域を創っていきましょう。

2019年（平成31年）3月 吉日

山野川地区自治協議会 会長 菅野 賢一

■資料編■

○資料編 1 山野川地区の「地域づくり計画」(将来計画)策定推進チーム設置要綱

1. 目的

山野川地区の課題や身近な自然・資源・歴史・魅力を再発見し、地区の様々な課題を考えたうえで、今後の目指す将来像を探り、山野川地域づくり計画を策定することを目的とする。

2. 推進チーム

1の目的を遂行するための山野川地区自治協議会内に「山野川地域づくり計画策定推進チーム」(以下「推進チーム」という。)を設ける。

3. 構成

推進チームの人数は、25名程度とし、構成は自治委員及び有識者とする。

4. 検討する内容

(内容)

総務企画部会及び四役会議において検討するテーマを決定する。

(策定方法)

- ・ワークショップ(作業しながらの意見交換会)を開催し、地域課題を発見し解決策を決定する。
- ・会議の手法は、少人数で話し合う「グループワーク」を行う。
→自治委員等25名を5班に編成し各班でテーマ毎に話し合う。
- ・適宜、伊達市市民活動支援センターに助言を依頼する。

5. 開催スケジュール

- ・12月上旬 「地域づくり計画」推進チーム第1回会議
- ・1月 第1回ワークショップ
- ・2月 第2回ワークショップ
- ・3月 第3回ワークショップ
- ・4月 第4回ワークショップ
- ・5月 第5回ワークショップ
- ・6月 地域づくり計画素案の策定
- ・7月 地域づくり計画案の決定

6. 庶務

総務企画部会とする。

○資料編 2 策定委員名簿

平成30年3月31日現在

	役 職	氏 名	所 属
1	班 長	菅野 賢一	ものづくり(産業振興)班
2	班 長	佐藤 善之	まちづくり(まちづくり、イベント)班
3	委 員	菅野 和枝	ひとづくり(教育文化)班
4	班 長	橘内 信夫	ひとづくり(教育文化)班
5	班 長	渡邊 敏雄	元気づくり(健康福祉)班
6	班 長	菅野 寛之	くらしづくり(総務・情報)班
7	委 員	菅野 和宣	くらしづくり(総務・情報)班
8	委 員	橘内 正人	ひとづくり(教育文化)班
9	委 員	菅野 美代子	ものづくり(産業振興)班
10	委 員	安藤 正行	まちづくり(まちづくり、イベント)班
11	委 員	菅野 祐治	元気づくり(健康福祉)班
12	委 員	菅野 森人	くらしづくり(総務・情報)班
13	委 員	大槻 佐代子	まちづくり(まちづくり、イベント)班
14	委 員	長澤 美智夫	ものづくり(産業振興)班
15	委 員	今泉 トシ	元気づくり(健康福祉)班
16	委 員	菅野 代喜子	ひとづくり(教育文化)班
17	委 員	橘内 薫	元気づくり(健康福祉)班
18	委 員	橘内 享一	まちづくり(まちづくり、イベント)班
19	委 員	藪内 ちはる	くらしづくり(総務・情報)班
20	委 員	丹治 哲	まちづくり(まちづくり、イベント)班
21	委 員	菅野 克久	くらしづくり(総務・情報)班
22	委 員	菅野 晃	ひとづくり(教育文化)班
23	委 員	高野 富士夫	ものづくり(産業振興)班
24	委 員	橘内 とき子	元気づくり(健康福祉)班
25	委 員	菅野 敏子	まちづくり(まちづくり、イベント)班
26	委 員	安藤 幸雄	元気づくり(健康福祉)班
27	委 員	菅野 康博	ものづくり(産業振興)班
28	事務局長	赤間 謙一	伊達市市民活動支援センター
29	担当者	加藤 麻子	伊達市市民活動支援センター

○資料編 3 計画策定の経過と組織

山野川地域づくり計画は、住民が主体となった地域づくりを展開することを目的として、山野川地区自治協議会が策定を進めてきました。

山野川自治会には、山野川地域づくり計画策定推進チームを置き、また、推進チームに5つの班を設置してそれぞれ計画策定に当たりました。

「くらしづくり(総務・情報)」、「まちづくり(まちづくり・イベント)」、「ものづくり(産業振興)」、「げんきづくり(健康福祉)」、「ひとづくり(教育文化)」という計画策定の5つの柱により班を構成し、それぞれの分野において、現状と課題の整理や地域づくりの目標、具体的な事業計画等の検討を進め、分野ごとの計画を策定しました。

そして、山野川自治会において、分野ごとに計画の整理・まとめを行い、「山野川地域づくり計画」を策定いたしました。

- ・平成 27 年 4 月 18 日 山野川地域自治組織設立準備委員会を設置
- ・平成 27 年 7 月 24 日 山野川地区地域づくり計画に係る「住民意識調査」を実施
～ 8 月 20 日
- ・平成 27 年 11 月 30 日 山野川地域自治組織設立準備委員会がアンケート調査結果報告書を発表

月 日	活 動 名	協 議 等 内 容
H28.12.3	地域づくり計画に関する研修会	地域づくり計画に関する研修会 (講師：伊達市市民活動支援センター)
H29.1.14	第 1 回地域づくり計画検討会	班に分かれてワークショップ
H29.2.26	第 2 回地域づくり計画検討会	班に分かれてワークショップ
H29.6.15	第 3 回地域づくり計画検討会	事務局打合せ
H29.6.17	第 4 回地域づくり計画検討会	班に分かれてワークショップ
H29.7.15	第 5 回地域づくり計画検討会	班に分かれてワークショップ
H29.8.26	第 6 回地域づくり計画検討会	班に分かれてワークショップ
H29.9.16	第 7 回地域づくり計画検討会	班に分かれてワークショップ
H29.11.11	第 8 回地域づくり計画検討会	班における事業候補の絞り込み作業
同上	地域づくり計画ワークショップ における検討協議を集約	班における「事業(課題)候補・優先順位」 を集約
H29.11.25	市民活動支援センターの最終報告	H29.11.11 の検討協議の集約を受け市 民活動支援センターの成果&経緯報告
H31.3.2	第 6 回拡大運営委員会	山野川地域づくり計画(案)を報告、確認

○資料編4 ワークショップの情景（山野川ふれあいセンター）

